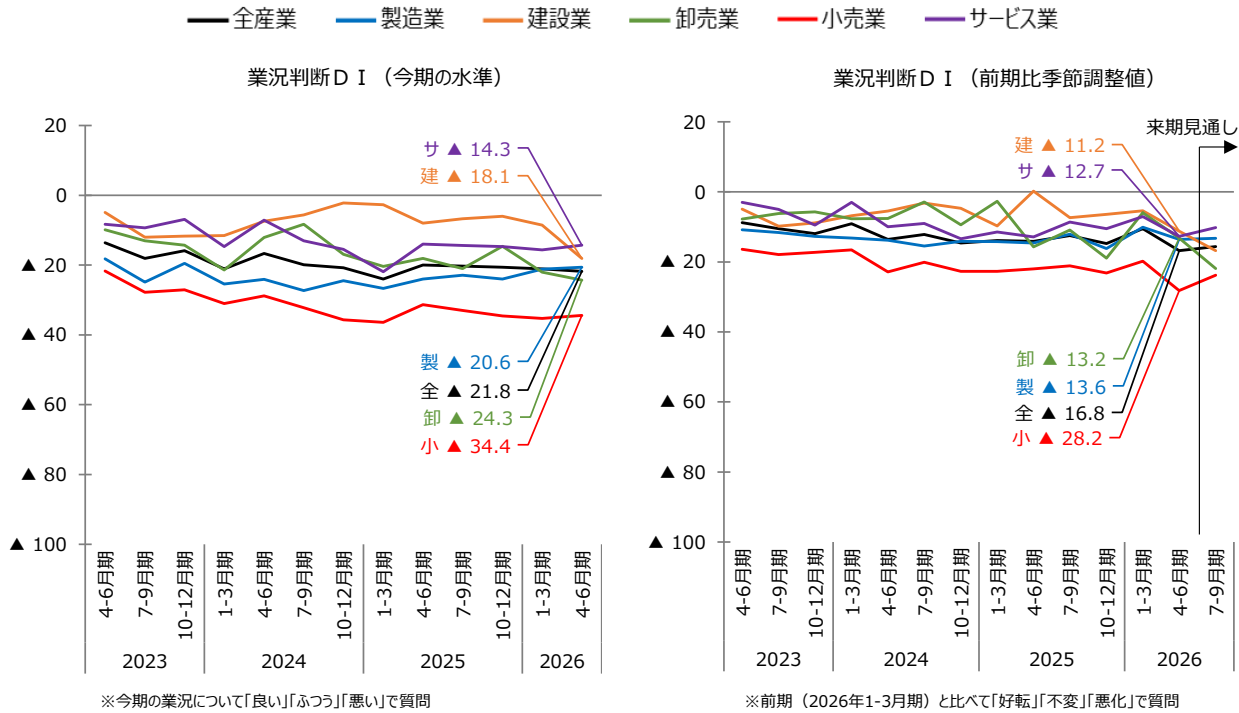


第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 九州・沖縄

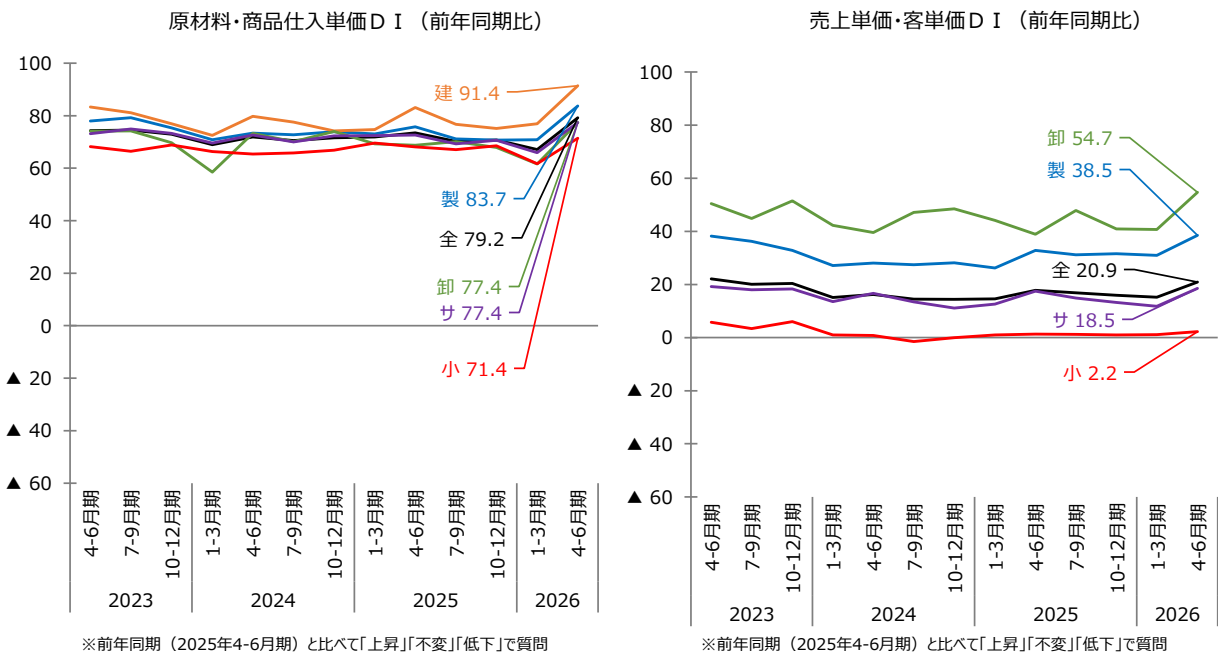
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より0.7ポイント減の▲21.8と4期連続してやや低下した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業、建設業で上昇し、建設業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より12.1ポイント増の79.2と2期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.7ポイント増の20.9と4期ぶりに上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

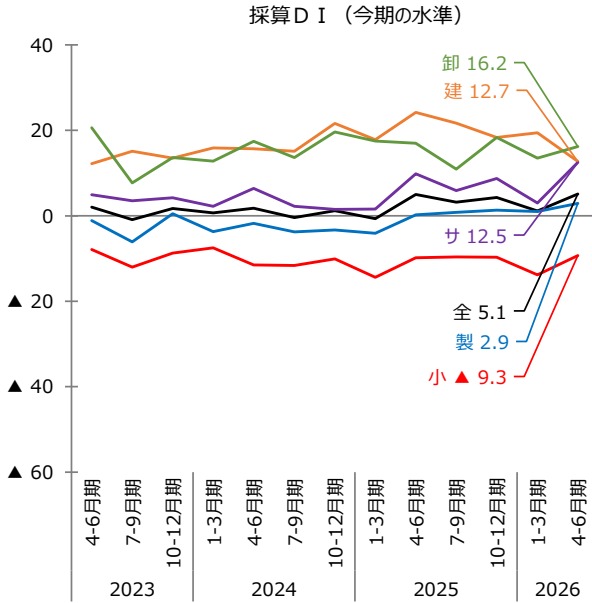
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、九州・沖縄：2,760企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 九州・沖縄

3. 採算

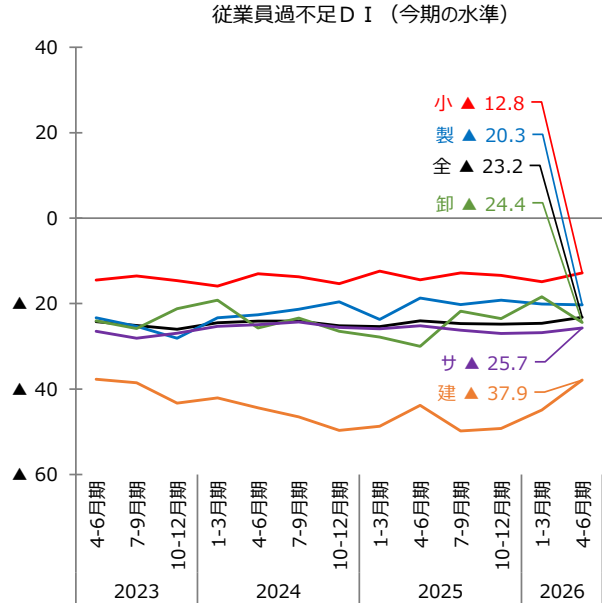
採算DIは、全産業で前期より4.0ポイント増の5.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、卸売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.4ポイント増の▲23.2と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	引合いは多いが、顧客の希望よりも長い納期を見込まないと生産が追い付かない。これからも原材料費の値上げが予定されており、利益幅が薄くなることが予想される。	製造業 その他の外衣・シャツ製造業
	部材の流通制限の影響で、仕入単価が高騰している。お客様の負担軽減を考慮し、価格転嫁できていない。すべてにおいて悪影響がでており、末端事業者と卸業者（メーカー）の歪みがでている。	建設業 電気配線工事業
	中東情勢の混乱に伴い、石油製品の調達が困難となっているため、メーカーからの接着剤やプラスチック製品の仕入日数が長期化している。	卸売業 非鉄金属製品卸売業
	中東情勢による仕入単価の上昇が激しい。特に主力商品であるからあげ弁当の鶏肉の高騰が激しく、仕入れ値が約3倍値上がりしている。また、鶏肉や梱包資材が入手困難で経営状態は厳しい状況である。	小売業 他に分類されない飲食料点小売業
	洗剤、包装ナイロン類が5月から20～40%の値上がりとなるが、価格転嫁することが難しく、値上げを悩んでいる。	サービス業 普通洗濯業
見通し	印刷製本業は数年続いて原材料の値上げが継続している。それに加えて今回の外国での紛争の影響からインクの調達に影響が及ぶ恐れが出てきて先行きが見通せない状況。	製造業 製版業
	手持ち工事も減ってきて、現場員が過剰になっている状況。物価上昇、資材単価上昇の中、受注数も落込み、今後の受注も不透明。	建設業 一般土木建築工事業
	現在、受注している物件の資材を前倒しで購入して資材を確保しているため、過剰在庫の前払金が発生している。6月以降の新規物件に対して資材不足がどれくらい影響があるのか見通せない。	卸売業 木材・竹材卸売業
	中東情勢の影響により、またガソリン価格が上がり、配達コストが増加している。また、現在はメーカーより大きな仕入値上げはないが、今後のナフサなど原材料価格の上昇による値上げが不安である。	小売業 牛乳小売業
	得意先の業務拡大に伴い、新規取引が増加した。今後も予定があり、値上げによる利益の増加がある。これにより好転の兆しがある。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)